

## 大果で食味が良い 中生のビワ新品種「なつたより」

ビワは優良品種が少なく、摘果・袋掛けや収穫・調製に労力が集中します。そのため、経営規模を拡大するためには、早生から晩生までの熟期が異なり、果実品質に優れた品種が求められています。また、作業の省力化には大果の品種が有効です。長崎県農林技術開発センターでは、国からの委託でビワの育種事業（農林水産省指定試験事業）を実施していますが、最近、大果で食味が優れた中生の新品種「なつたより」を育成したので、その概要を紹介します。

### ☆ 技術の概要

1. 1990年に「長崎早生」に「福原早生」を交雑し、選抜・育成した系統を、2008年3月に品種登録出願し、2009年2月に品種登録されました。初夏の訪れを告げる品種であることをイメージし「なつたより」と命名されました。
2. 果実の熟期は5月下旬で、これまでの主要品種「茂木」よりやや早く成熟します。果肉は柔軟多汁で、糖度は「茂木」よりも高く、食味は良好です。
3. 果実は短卵形で、果皮及び果肉は橙黄色です。果実重は60g以上で「茂木」（45g前後）より大果で、果肉も厚くボリウム感があります。裂果は無く、その他の果皮障害も少なく、外観は良好です（写真）。
4. 樹勢は「茂木」よりもやや強く、樹姿はやや直立します。着花は良好で豊産性です。主要病害であるビワがんしゅ病の発生は少ない品種です。



写真 ビワ「なつたより」の果実

### ☆ 活用面での留意点

1. 西日本のビワ栽培地域に適します。
2. 果皮色は「茂木」よりもやや薄いので、収穫適期を逃さないよう注意します。
3. 年により樹冠上部や外周部の果実に紫斑症が発生することがあるので、遮光性の高い果実袋を用いるなどの対策をします。
4. 詳細については、長崎県農林技術開発センター 果樹研究部門 ビワ・落葉果樹研究室（電話：0957-55-8775）にお問い合わせください。

（日本政策金融公庫 テクニカルアドバイザー 後藤 明彦）